

23. HIV・エイズの効果的な普及啓発活動と意識調査についての考察

齊藤美和、中村智子、土屋こずえ、笹井香、丸山知恵美、西澤みさ子（長野市保健所健康課）

要旨：エイズは、もはや一部の人の問題ではなく誰でも感染の可能性がある身近な問題となっている。しかし、HIV・エイズ予防の普及活動をすすめる中で、「自分は大丈夫」「関係ない」という声も聞かれる。そのため、「他人事」から「自分事」への意識変容を促し「検査を受けてみたいけれど、実行に移せない」という人に対しての効果的な普及・啓発活動を検討し実践したので、その考察を行ったところ、視覚的媒体の活用が有効であることが分かった。また、市民対象に行ったHIV・エイズに対する意識調査アンケートにより、正しい知識の普及が意識変容を促すことに有効であることが示唆された。

キーワード：HIV、エイズ、他人事、視覚的媒体、意識調査

A. 目的

長野市保健所で行っている普及・啓発活動と、長野市民対象の意識調査での現状把握を行い、より効果的な普及・啓発活動について考察する。

B. 方法

①普及・啓発活動（平成20年度新規事業）

- a 検査普及ポスターの作成
- b 広報特集号、HP への掲載内容の改正
- c HIV・エイズ啓発のイメージキャラクター作成
- d 薬局への検査カード及びポスターの設置

②アンケート調査

対象：長野市内在住の20歳以上の男女
（等間隔無作為抽出）

総数：5,000名 回収数3,292通 回収率65.8%
（男性：43.3% 女性：56.3%）

期間：平成20年11月25日～12月10日

設問：あなたはHIVやエイズについてどのように
思っていますか（複数回答）

【選択肢】

- 1、聞いたことはあるが、自分は関係ない
- 2、日本ではHIVに感染する人が増えているが、長野県では減っている
- 3、日本ではHIVに感染する人が増えているが、長野県も増えている
- 4、HIVに感染するとすぐに症状が出る
- 5、HIV検査を受けてみたい（まだ受けたことがない）
- 6、HIV検査を受けたことがある（これから受ける）

③まちかど休日検査の実施

C. 結果

①普及・啓発活動

【周知方法・内容の検討】

知識の普及だけでなく、HIV・エイズや検査が身近に

感じられるように、イメージキャラクター「レッドりぼんちゃん」を作成し、いろいろな広報媒体に掲載した。また、予約から検査終了までの一連の流れが視覚的にわかるように、写真を利用した啓発ポスターを作成し、各保健センターや中学校・高等学校へ配布した。

広報誌では基本的な知識の掲載ではなく、日常的に市民から聞かれる事柄をQ&A方式にし、伝えたい内容のポイントをしばった。また、保健所において検査を受けた人に書いてもらっている感想を、了解を得て直筆のまま広報誌やホームページ及び街頭啓発で配布するティッシュへ掲載した。

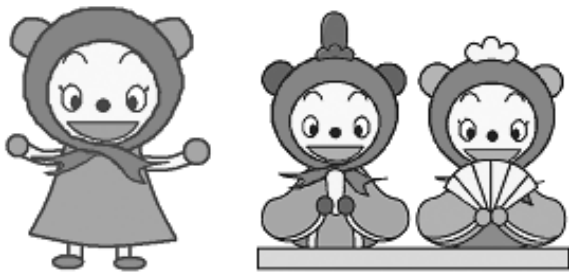
自分の健康について関心の薄い人に対する周知として、色々な人が訪れる機会の多い薬局に検査カード及びポスターを設置した。

【評価】

その後、「広報（ポスター）がわかりやすかった。」
「自分も可能性があるという事がわかり、受けてみようと思った。」「今までは受けにくかったけど、写真でイメージができたので来た。」「薬局のカードをずっと持っていて、電話した。」などという感想が聞かれた。また、休日・夜間及び平日検査の申込み希望件数が多く、6月や12月などのイベント後のみでなく年間通しての受検希望があった。

<検査普及ポスター>





レッドいぼんちゃん

②アンケート調査

「日本では HIV に感染する人が増えており、長野県も増えている」という回答が60%と最も多い。次に、「聞いたことはあるが、自分は関係ない」という回答が約4割である。年代別では、「HIV 検査を受けてみたい。」という回答は「20歳代」で約3割、「30歳代」で約2割となり、年代が高くなるにつれてその回答割合が低くなっており、「検査を受けたことがある」という回答は「30歳代」約1割、それ以外の年代では一割に満たない。また、「日本では HIV に感染する人が増えており、長野県も増えている」を選択している人の約2割が「自分は関係ない」と回答しており、逆に選択していない人の7割強が「自分は関係ない」と回答している。

③まちかど休日検査の実施

【実施方法】世界エイズデーに合わせ、長野市中心部にある複合施設「TOiGO」において休日検査を実施。

・2008年12月7日（日） 予約不要

【評価】その結果「買い物途中に、予約せずに受けられたのでよかった。」「ずっと受けたかったが予約する勇気がなかったのがよかった。」という感想が聞かれた。

D. 考察

普及・啓発活動では、視覚に訴えるようにポスターを作成したため、検査に対するイメージが付きやすくなり、予約するという行動に効果的であったと考える。また、Q & A方式にした事や検査後の感想を直筆で掲載したことにより、「自分も関係あるかもしれない。」「特別な病気ではない」と「自分事」として感じてもらうきっかけにつながったと考えられる。

アンケート調査では、長野県の HIV 感染者・患者が増えているという回答が多かった。これは、今まで行ってきた普及啓発活動の結果、正しい知識の普及につながったと考えられる。しかし、自分は関係ないという回答は全体の約4割であり、HIV・エイズは「他人事」であるとの意識が伺えた。選択肢3と他選択肢とのクロス集計では、長野県が増えていると回答した人のうち約2割が自分は関係ないと回答している。しかし、長野県が増えているという設問を選択しなかった人の7割強が自分は関係ないと回答しているため、正しい知識を持つことが、「他人事」から「自分事」へ認識を変えていく方法の一つであることが確認された。

検査において、平日検査の予約希望数が年間通して多かった事から今後は夜間検査の日数を増やし、検査の受け入れ枠を増加させていく。また、予約不要にすることで気楽に受検することが出来る為、まちかどでの休日検査の実施回数を増やし、会場の検討が必要である。

今回の検討・周知を行ったことによる受検者の変化や市民意識の調査・評価を行い、地域や時代に則した HIV・エイズ対策を行っていききたい。

図 1

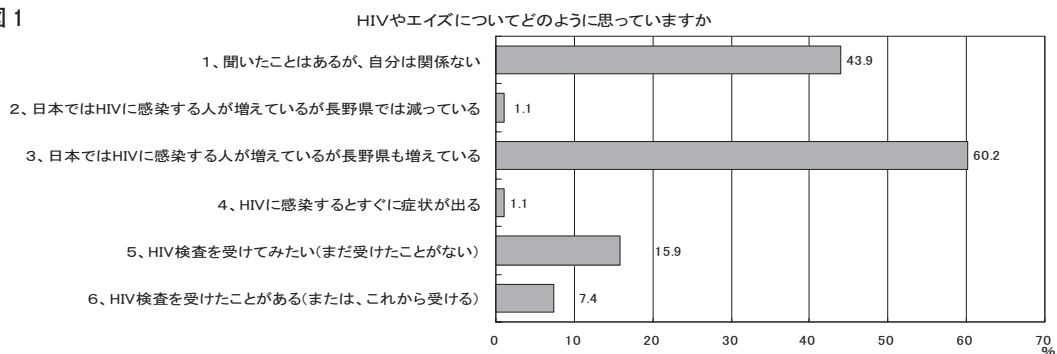


図 2

